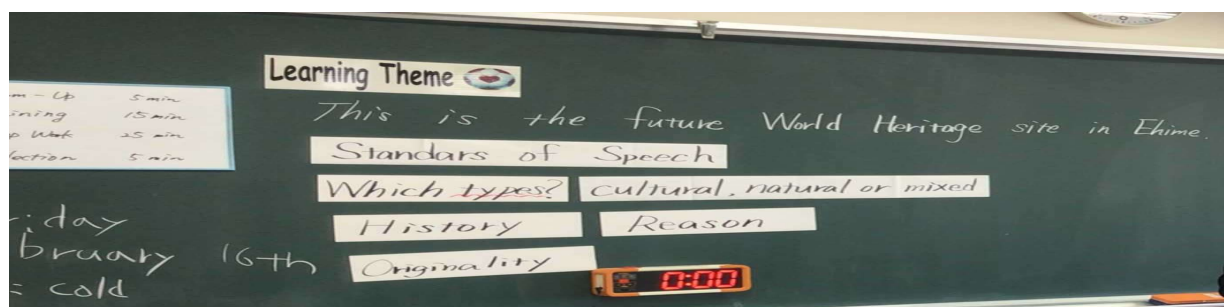


授業の成果と課題

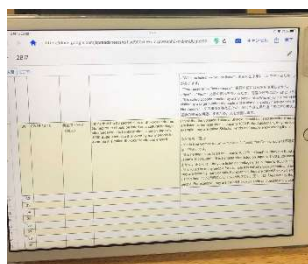
1 授業の実際

(1) 板書



(2) 生徒の学びの実際（アンケートより抜粋）

- AI を活用することで話す機会が増え、自分の発音の悪さや、文法の間違いに気付くことができた。他者からのフィードバックを通じて改善することができることを実感した。以前は、話す力に課題を感じていたが、ChatGPT を利用することで自信を付けることができた。
- グループ学習を通してどのように工夫すれば相手に伝わりやすいか（資料作りも含めて）今までよりも深く考え、実際に試してみるいい機会になった。役割分担し班で活動することで、相手への質問やコメントなどの多くの表現を学んだ。また、AI と練習することで、発音や文法のミスなど自分の課題を教えてくれて、解説してくれたので学びに繋がったと実感した。即興で質問を考えたり、答えたりする力が身に付いた。



2 成果（○）と課題（●）

(1) 「AI 英会話」（AI とのインタラクティブな英会話練習）, 「AI 添削」

- 英語を話すことに自信がない生徒は、「生成 AI と会話する方が、直接人と会話する時よりも緊張しなかった。」と答えており、タブレットに向けて話すことで、英語を話すことへのハードルが下がったと考えられる。
- 「生成 AI との会話では、自分が話した音声が入座に文字化されるため、自分の発音が間違っていると、正しく聞き取ってもらえなかった。発音練習をしっかりとしたい。」と答えていた生徒が多くいた。生徒は今までも、ALT と会話をする機会があったが、生徒の発音や文法に多少問題があっても、ALT が問い返しをしてくれたり、分かりやすい英語に直してくれたりするため、話していることが伝わらないという経験はしてこなかったと考える。そのため、今回の生成 AI との会話によって生徒自身が発音に関するたくさんの気づきを得たと考えられる。
- 「生成 AI が話した音声を勝手に日本語にしたり、多言語で質問したりするため、会話が上手くいかなかった。」という意見を書いている生徒が多く、AI が意図していない回答を行う（ハルシネーション）などの AI の技術的な課題と共に使用者側の課題を再検討する必要がある。

(2) 「他者との協働学習」

- グループで役割分担をし、活動することに対しては、半数以上の生徒が英語を話すことに有効であると考えている。その理由として、「教え合いができること」、「友達の発表から既習の文法をどのように応用させて使うか分かったから」などが挙げられていた。このように、他者との協働学習における学びは、生徒にとって自分の英語で話す力を振り返り、学びを調整するよい機会となっている。
- グループ内での振り返りについては、日本語でフィードバックがある方が分かりやすいという意見も多く、全て英語で行うことに違和感を持っている生徒も多かった。英語と日本語のバランスを再考することが必要である。